

認知症事業施策について

目的：認知症になっても尊厳を保持し希望を持って暮らし続けることができるように、医療と介護の連携により、早期相談支援の取組を推進し、認知症の本人と家族が住み慣れた地域で役割と生きがいを持って社会参加ができる地域づくりの取組みをすすめていくことを目的としています。

取組の方針：認知症の正しい理解に向けて地域の幅広い年代層への周知啓発を促進し、認知症の本人や家族が初期段階から進行や症状に合わせて、身近に継続的に相談できる体制づくりを推進しました。

成果：コロナ禍により「認知症サポーター養成者数」は減少していたが「小中学生」を対象にしたサポーター養成講座の実施により、認知症サポーター年度養成者数は増加し、全世代の方が我が事として捉えられるよう周知啓発に繋がっております。

1. 認知症施策の推進

(1) 医療と介護の連携の推進

評価：市民が認知症等に関してより早い時期から医療受診できるような体制を確保するために、かかりつけ医と専門医の中間的な位置付けとして「もの忘れ相談医」を登録し、その情報を市民に提供することにより、認知症の早期発見及び早期治療を推進しました。認知症の方の尊厳を大切にしたいケアを目指し、医療・介護職等の研修会を実施しました。認知症マップ（つるマップ）は、つるおかオレンジサポートの会等の市民ボランティアと病院、救急隊、介護施設がつながり、認知症ケアに活用されています。

①認知症対応力向上研修会

対象：病院の医療従事者・介護保険事業所の介護従事者

実施状況	参加者数
実施日 令和5年10月13日(金)18:30~20:00 リモート講演 『マップがつなぐ認知症ケア ~現場での活用例とケアガイド~』 講師：聖隷浜松病院 認知症看護認定看護師 富樫 千代美 氏	85人

②認知症キャラバン・メイトフォローアップ研修会

目的：認知症に関する知識を正しく理解し、認知症を支援する人（認知症サポーター）を一人でも多く増やし、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを実現するため、認知症サポーター養成講座の講師である認知症キャラバン・メイトの活動の活性化を図る。

実施状況	参加者数
実施日 令和5年7月28日(金)14:00~15:40 リモート講演 「チームオレンジの活動から見たこと ~認知症と“ともに生きる”地域~」 講師：特別養護老人ホーム明幸園 施設長 山本 清智 氏 情報提供 「小中学生対象の認知症サポーター養成講座について」 講師：鶴岡市長寿介護課 五十嵐美恵子	82人

③もの忘れ相談医登録制度に関する事業

・もの忘れ相談医登録数(R6.4.1現在):26箇所(病院1、診療所25)登録医師数27人

(2) 本人及び家族の思いを伝える場づくりの推進

評価：認知症の方や家族の視点を重視し、市民が認知症を正しく理解し、予防、適切な医療・介護につながるための取組を各地域包括支援センターに配置している認知症地域支援推進員を中心に、「つるおかオレンジサポートの会（認知症キャラバン・メイトによる有志の組織）」等関係団体と連携し進めることができました。

①認知症を理解する教室

認知症の人や家族が認知症に関する正しい知識を持ち、認知症の状態に応じた適切な対応と不安の軽減を図るとともに、もの忘れ相談医等の負担軽減を図るため実施しました。

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
開催回数	5回	6回	5回	6回	6回
参加者数	135人	259人	201人	181人	215人

②認知症カフェ（ほっこりかふえ・若年性認知症カフェ）

専門職によるミニ講話、認知症の人や家族、地域の人、専門職との交流や相談により、認知症について共に学び、不安や負担の軽減を図るために実施しました。

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
開催回数 (再掲:若年性認知症カフェ)	11回	6回 (-)	8回 (-)	12回 (2回)	12回
参加者数 (再掲:若年性認知症カフェ)	338人	259人 (-)	269人 (-)	284人 (8人)	281人

③認知症カフェ出前教室

認知症カフェに関する正しい知識を理解し、誰もが参加できる認知症カフェの拡大につなげるために実施しました。

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
開催回数	7回	3回	2回	3回	2回
参加者数	103人	37人	28人	54人	46人

④認知症サポーター養成事業

認知症に対する正しい知識をもち、認知症の人や家族を応援し誰もが暮らしやすい地域をつくっていくサポーターを養成しました。

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
開催回数	44回	24回	30回	29回	26回
参加者数	1,621人	541人	923人	839人	1,139人